

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	体育講義		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年生		学期及び曜時限	前期 水曜日1限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	可兒勇樹	実務経験とその関連資格	保育士として保育所に11年間勤務。			
《授業科目における学習内容》						
<p>幼児の発育発達を学び、その運動方法を理解することができる。 また、様々な運動遊びを実施しその様式と指導方法を理解することができる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席点(20%)・平常点(10%)・試験(70%)から授業の理解度を総合で示す。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
パワーポイント、配布資料						
《授業外における学習方法》						
本講義では、正しい運動指導を実施できる保育士を目指すことはもとより幼児の発育発達の特徴への理解を求める。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義の進め方を理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	ガイダンス			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の必要性和健康との関わりについて学ぶことができる(1)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	健康を阻害する環境(なぜ、運動が必要なのか?)			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動の必要性和健康との関わりについて学ぶことができる(2)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	健康を阻害する環境(時代背景から)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋肉の種類を把握し、それぞれの名前と機能について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	運動と筋肉			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経系の仕組みと運動との関係性について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習	
		各コマにおける授業予定	運動と神経系			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳のと運動との関係性について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と脳		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸の仕組みについて理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と呼吸		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動が及ぼす骨強度への貢献を理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と骨格・体格		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	体温調節機能と運動が及ぼす影響について理解することができる	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と体温		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液の循環と運動との関わりについて学ぶことが出来る	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	運動と循環		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の発育と発達について理解することができる(1)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の発育と発達について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の発育と発達についてを理解することができる(2)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の発育と発達について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の運動指針を理解することができる(1)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の運動指針に関して		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児の運動指針を理解することができる(2)	・パワーポイント ・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	幼児の運動指針に関して		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義を通して幼児における生理的学びを深めることができる	・配布資料	配布資料の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	保育原理	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年生	学期及び曜時限	前期 木曜日2限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	山田 遥	実務経験と その関連資格	吹田市、大阪市の認可保育園にて、保育士として勤務。担任や実習指導を行う。 保育士資格 幼稚園教諭2種免許		

《授業科目における学習内容》

保育について、保育制度、内容、方法、政策、歴史など基本的な学び、幅広い視野を持ち、また、保育の基本である子どもの遊び、生活について学び、幼児の育ちを支援する保育の原理・原則を説明できるようになる。さらに、現代の子育て支援ニーズ、対応の視点から、発展的な視点と保育士の仕事の位置づけ、求められていること、実践内容が出来る。またグループワークも取り入れ、自分なりの保育観を確立、保育士としての自己実現できるようになる。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験 70%
2. 出席点 20%
3. 平常点(授業態度・課題提出等) 10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材:保育原理(中央法規・みらい)

《授業外における学習方法》

予習として、授業時に指示した次回の内容について保育指針、解説書を読む。保育や乳幼児や子どもを取り巻く時事ニュースに関心を持ってみる。復習として、再度、授業で学んだ部分の保育指針と解説書を読む。授業終了時に示す課題を実施しておくこと。授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけるために、現場経験の機会を作る

《履修に当たっての留意点》

学ぶすべての科目がそれぞれ別個のものではなく、根底は一つの水脈でつながっている事を保育原理の授業を通して学んでくれる事を期待します。この授業を学んで、保育士としてより深い楽しみ、やりがい、喜び、大きな自己実現につなげる機会としましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育の意義や目的を説明できる。	保育所保育指針、 保育所保育指針解説、 配布資料 参考教材: 保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、保育とは何か、理念と概念を理解する。子どもを取り巻く社会の変化を理解する。		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育所の公的施設としての社会的責任について説明できる。	保育所保育指針、 保育所保育指針解説、 配布資料 参考教材: 保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育が果たす社会的役割と保育に求められている責任について理解する。子育て状況の問題点を理解する。		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育所、幼稚園、認定子ども園の成り立ちを説明できる。	保育所保育指針、 保育所保育指針解説、 配布資料 参考教材: 保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	法律に基づき制度として位置づけられた保育の公的な営みを理解する。子ども・子育て支援新制度による保育の変化を知る。		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	保育所保育指針の方向性と構成について説明できる。	保育所保育指針、 保育所保育指針解説、 配布資料 参考教材: 保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育所保育指針に基づく内容や制度的位置づけについて理解する。		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	乳児保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、 保育所保育指針解説、 配布資料 参考教材: 保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 1歳以上3歳未満保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	1歳以上3歳未満の保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 3歳以上児保育のねらいと内容について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	3歳以上児の保育の基本(養護と教育の一体性・環境を通して行い、発達段階に応じた保育)を事例を基に理解する		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 保育の過程のための、子どもの発達の捉え方について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育における子ども理解の視点と方法について、理解する(子どもを見るまなざしと行為の意味を理解する)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 自分の子ども観、発達観、保育観を説明することができる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	子ども観・発達観・保育観とはなにかを考察する。子ども観と保育の内容・方法を身につける。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 子ども観、発達観、保育観から、保育の目標と方法について説明できる	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育の目標・方法・環境について、さらに深く理解する(子ども観・発達観・保育観から考える)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 子育て支援のニーズに合わせた、相談支援を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	子育て家庭の困難状況、現在の問題点を理解し子育て支援のニーズを理解する。相談支援の基本原則を理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 海外の保育思想や歴史を説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	海外の保育思想と歴史とつながる(子どもの発見という歴史的転換について把握し、現代における子ども中心の保育教育思想の発展を学ぶ)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 戦後の保育から、現代の保育の原点にについて説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	日本の保育思想と歴史とつながる(古くから伝わる日本人の保育観を見直すと共に戦後の保育と現代の保育のつながりを考える)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 保育者に求められる「専門性」について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	保育所保育指針と解説書の指定部分、関連した記事や情報を事前に読んでおく事。授業で使用したプリントを、再度読み返し、復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	「保育の専門家への道」とつながる。これからの保育者論について知る		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 日本の保育の現状と課題について説明できる。	保育所保育指針、保育所保育指針解説、配布資料 参考教材：保育原理(中央法規・みらい)	既習全学習(資料配布等)を振り返り、しっかりと復習しておくこと。
	各コマにおける授業予定	日本における保育の現状と課題について理解し、子ども・子育て支援新制度の改革の実態を知る。		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	実技
科 目 名	体育実技		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年生		学期及び曜時限	後期 水曜3限	教室名	体育室
担 当 教 員	可兒勇樹	実務経験とその関連資格	保育士として保育所に11年間勤務。			
《授業科目における学習内容》						
<p>幼児の発育発達を学び、その運動方法を説明することができる。 また、様々な運動遊びを実施しその様式と指導方法を実践することができる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
出席点(20%)・平常点(20%)・試験(60%)から授業の理解度を総合で示す。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
本講義では、正しい運動指導を実施できる保育師を目指すことはもとより幼児の発育発達の特徴への理解を求める。						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	本講義の進め方について理解することができる		配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。	
	各コマにおける授業予定	ガイダンス				
第2回	授業を通じての到達目標	マット運動の動作ができる		配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。	
	各コマにおける授業予定	マット運動				
第3回	授業を通じての到達目標	縄跳び遊びの動作ができる		配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。	
	各コマにおける授業予定	縄跳び遊び				
第4回	授業を通じての到達目標	竹馬あそびの動作ができる		配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。	
	各コマにおける授業予定	竹馬あそび				
第5回	授業を通じての到達目標	コミュニケーション・表現に関わる運動の実践と指導方法について理解することができる		配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーション・表現に関わる運動の実践と指導				

授業の方法		内 容			
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーション・表現に関わる運動の実践と指導方法について理解することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	コミュニケーション・表現に関わる運動の実践と指導		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	コーディネーション運動の実践と指導方法について理解することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	コーディネーション運動の実践と指導		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	変形走の実践と指導方法について理解することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	変形走の実践と指導		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	変形走の実践と指導方法について説明することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	変形走の実践と指導		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	投げる動作の実践と指導方法について説明することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	投げる動作の実践と指導		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	投げる動作の実践と指導方法について説明することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	投げる動作の実践と指導		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	跳ぶ動作の実践と指導方法について説明することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	跳ぶ動作の実践と指導		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	跳ぶ動作の実践と指導方法について理解することができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	跳ぶ動作の実践と指導		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	幼児における生理的学びについて述べるすることができる	配布資料	講義の内容を復習し次回の講義に備えること。
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	幼児における生理的学びについて述べることができる	配布資料	これまでの資料を確認し、すべての単元におけるの苦手箇所を把握しておくこと。
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	保育の心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年生		学期及び曜時限	前期 月曜日2限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	木下 亜子	実務経験とその関連資格	臨床心理士、公認心理師、保育士、教員専修免許。大阪府チーフスクールカウンセラー。いじめ問題対策連絡協議会委員。児童相談所や保健センターで発達相談やカウンセリング・各種心理検査を10年以上経験。延べ8,000件。			
《授業科目における学習内容》						
<p>乳幼児によくみられる言葉の問題、発達障害、情緒的なしんどさ、特性など、様々な問題について取り上げ、どのように対応していけば良いのかについて理解することができる。また、授業内での課題でもある自らの幼少期についてのエピソードを調べたり、自己分析をしたりすることで、自分自身を知ることができる。</p> <p>後半では、様々な心身の問題や家庭環境・愛着について理解したうえで、カウンセリング技法を使ったやりとりについても学び、精神保健や心の問題について、授業の中で発展して個々が考えていくことができるようになる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
本試験、平常点(レポート提出、授業態度)、出席点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
《授業外における学習方法》						
まとめプリントや宿題						
《履修に当たっての留意点》						
レポート課題があります。授業の中で内容と提出期限をお知らせします。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	健診でどういうところに注目しているのかを説明できるようになる			宿題
		各コマにおける授業予定	一歳半健診の実際①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健診でどういうところに注目しているのかを説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	一歳半健診の実際②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児から幼児前半のことばの問題について説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	ことばの問題			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健診でどういうところに注目しているのかを説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	三歳児健診の実際			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児のことばの問題について説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	ことばの問題 2			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童虐待について説明できるようになる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	児童虐待 事例検討		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童虐待について説明できるようになる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	児童虐待 事例検討		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	愛着について説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	愛着とは ①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	愛着について説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	愛着とは ②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉スペクトラムについて説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	自閉スペクトラム ①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉スペクトラムについて説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	自閉スペクトラム ②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	気になる言動のある幼児について、視野を広げることができる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	気になる幼児 ①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	気になる言動のある幼児について、視野を広げることができる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	気になる幼児 ②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	気になる言動のある幼児について、視野を広げることができる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	気になる幼児 ③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の授業のポイントを振り返り、言語化できる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	総復習		

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子どもの保健	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年生	学期及び曜時限	前期 水曜2限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	立脇 一美	実務経験と その関連資格	総合病院にて看護師として勤務(新生児室・小児看護) 重症心身障害児施設に看護師として勤務(障害児・者看護)		

《授業科目における学習内容》

- ①子どもの身体的・精神的・社会的発育・発達について理解し、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。
- ②子どもの疾病とその予防方法および適切な対応について理解し、実践することができる。
- ③小児保健統計を中心に現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について考え、配慮することができる。

《成績評価の方法と基準》

基準

子どもの疾患に関する医学的な事項を理解し、具体的に対応することができれば合格とする。

方法

出席評価点にて20%、平常評価点にて10%、定期試験の結果を70%として、総合的に評価を行う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキストは使用せず、毎回プリントを配付する。

参考図書:「図解 子どもの保健 I」 著者:大森正英/服部右子編 出版社:株式会社みらい

《授業外における学習方法》

予習:事前にプリントを、熟読しておくこと(1時間程度)。

復習:板書内容やプリントを中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。

《履修に当たっての留意点》

「自分ならどう考え、どうするのか」といった学問的視点を常に有し、授業に積極的に参加することを望みます。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの健康に関する基本的な考え方を習得し、それは個人因子と環境との整合性の中で成り立つことを理解することができる。	配付プリント	復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	WHOが提唱する健康の概念について、ヘルスプロモーションや各種保健統計を含め、講義を行う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもに関連する社会的問題について学び、自分なりの考えや見解を持つことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	現代社会における子どもの社会的問題(栄養や体力といった健康面・児童虐待・出生前診断なども含む)に着目し、その現状や課題について講義をする。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 児童虐待の現状を知り、その防止のためには、社会や地域ぐるみでの対応が必要であることを理解し、説明することができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	児童虐待の現状と、現在の虐待に関する行政的対応や地域的活動などについて講義を行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの身体的・精神的・社会的発育について、月齢や年齢に応じ、具体的に理解することができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもの身体的・精神的・社会的発育について、段階別に講義を行う。特に乳児の身体的発達については、詳細に説明を加える。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの身体計測(身長・体重・胸囲・頭囲)を正確に行うことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもの発育および発達の把握と、身体計測の方法について説明を行う。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの一般状態の観察のポイントを理解し、バイタルサインのチェックが正確にできるようになる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもの一般状態の観察のポイント、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態といったバイタルサインのチェックについて講義を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	麻疹・風疹・水痘といった学校感染症について理解し、集団感染も視野に入れ、早期発見や早期対応を行うことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	麻疹・風疹・水痘といった学校感染症の原因・潜伏期・感染期間・症状・対応方法について、具体的に講義を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	流行性耳下腺炎・咽頭結膜熱といった学校感染症について理解し、集団感染も踏まえ、早期発見や早期対応を行うことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	流行性耳下腺炎・咽頭結膜熱といった学校感染症の原因・潜伏期・感染期間・症状・対応方法について、具体的に講義を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染を予防するための原則を理解し、予防接種の分類・時期・費用・副反応について理解することができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	感染予防の三原則を理解し、予防接種の分類・時期・費用・副反応など取り扱い全般について、具体的に講義を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	重要な予防接種の細かい留意事項が、理解できる。(四種混合・結核・MR・水痘・流行性耳下腺炎・日本脳炎・インフルエンザ)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	重要となる疾患別予防接種について、細かい留意事項の説明を行う。(四種混合・結核・MR・水痘・流行性耳下腺炎・日本脳炎・インフルエンザ)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(気管支喘息・アトピー性皮膚炎・花粉症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多いアレルギー疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(気管支喘息・アトピー性皮膚炎・花粉症)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器・循環器疾患の原因・症状・対応・予防方法について理解することができる。(ノロ及びロタウイルス感染症・腸重積・心不全・熱中症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い消化器疾患と循環器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(ノロウイルス感染症・ロタウイルス感染症・腸重積・心不全・熱中症)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもに多い血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(鉄欠乏性貧血・白血病・川崎病)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(鉄欠乏性貧血・白血病・川崎病)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器・内分泌疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(肺炎・SIDS・糖尿病・甲状腺疾患)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い呼吸器疾患と内分泌疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(肺炎・乳幼児突然死症候群・糖尿病・甲状腺疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎・泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い腎・泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	社会福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年		学期及び曜時限	後期 水曜2限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	丸野 弘敦	実務経験と その関連資格	高齢者施設 相談員8年勤務 社会福祉士			
《授業科目における学習内容》						
虐待や貧困、家族介護などの諸問題に対して、保育者が知っておくべき事柄、法律や制度について理解を深め、社会福祉が、子どもから高齢者まで、すべての人の一生・生活に大きく関係していることを説明できるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林 ・参考図書:保育所保育指針、保育福祉指針など 						
《授業外における学習方法》						
<p>復習として、授業内で得た知識と普段の生活との関連性について考える。</p> <p>施設実習後は、授業で得た知識を実際に施設実習での体験を関連付けしておく。</p> <p>予習として、学科内で普段から使用している『朝日新聞時事ワークシート』を用いて、福祉領域の出来事について関心を強めておく。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
社会福祉は、子どもから高齢者まで、すべての人の一生・生活に大きく関係していることを理解し、少しでも社会福祉に関心・興味を持ち、保育者にとっても社会福祉は必要であることを理解し、受講してもらいたいです。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育者にとって、社会福祉の知識が重要であることについて、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『日本社会の現状(少子高齢化)』について理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠・出産の制度や仕組みについて、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『妊娠にかかわる制度』について理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	戸籍制度や親権・容易国関する支援制度について、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第4回の授業開始時に3回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『出生に関する法律』について理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの貧困とは何か、また児童家庭福祉にかかわる行政機関・施設・法律には何があるか、他者に簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『子どもの貧困』について理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利、社会福祉サービスの利用の仕組みについて、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『子どもの権利』について理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の必要性について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会保障について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICF・ノーマライゼーションについて、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	障害のとらえ方について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害児・者福祉の法律・制度について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第9回の授業開始時に4～8回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	障害児・者福祉の法律・制度について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	『地域福祉を支える機関や団体には、どのようなところがあるのか、また、どのような活動を行っているのか』、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域福祉についてについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	『保育者にとって、ソーシャルワークがなぜ必要か』、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第12回の授業開始時に9～11回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークについて理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	相談支援とは、どのようなことであるか、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育相談支援について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活保護、低所得者福祉について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生活保護、低所得者福祉について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護サービス・年金制度・死亡届について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第15回の授業開始時に12～14回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉、介護保険制度について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	誕生から死亡までに関連する法律・福祉制度について説明できる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	これまでの振り返り、まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	乳児保育 I	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年	学期及び曜時限	前期 火曜4限	教室名	合同301教室
担 当 教 員	酒井 妙子	実務経験と その関連資格	社会福祉法人ミード保育園にて保育士として勤務した後、ベビーシッター会社のアドバイザー、手づくりほいく研究会の代表等を経て、育児セラピスト及びベビーマッサーインストラクター。		

《授業科目における学習内容》

命の大切さを学び、乳児の育ちを生活を正しく理解し、保育士としての望ましい関わりが学べる様な授業内容を展開する。
【乳児保育の基本・乳児保育の必要性と意義・0歳児～3歳未満児の発達と保育・子育て支援としての乳児保育(親とのつながり、つきあい方)】

《成績評価の方法と基準》

定期試験(70%) 出席点(20%) 平常点(提出物、授業への参加態度など)(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- ・教科書:『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』
- ・参考図書:『保育所保育指針』『子どもの育つみちすじ(服部祥子著 新潮文庫)』『愛するということ(エーリッヒ・フロム作 鈴木晶訳)』
- ・参考絵本:『おへその穴(長谷川義史作 BL出版)』

《授業外における学習方法》

- ・授業終了時に、次回の授業内容についての予告をする。それについて関連する教科書の箇所や新聞・テレビなどの情報を入手し、ある程度の知識を持って授業に望むよう努める。
- ・授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけた知識となるためにも、実習をはじめ、現場体験を重ねるよう努める。
- ・授業における疑問点やさらに深く学びたいことは、自ら様々な文献を紐解き調べ学習するように心がける。

《履修に当たっての留意点》

乳児期は「ヒトが人間」となっていく一生の中で、もっとも大きな変化(発達)をなしとげる時期である。そして、「生きる為に生きる」エネルギーには目を見張るものがあるが、そのエネルギーと尊い生命を支えているのは子どもの隣に存在する大人(保育者)である。是非とも、学生の皆さんにはそのような存在になりえることに喜びをもって自覚して頂きたい。又、自覚してもらえ様な授業を展開したいものである。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	乳児保育におけるスタッフ間の連携の重要性を理解し、様々な人と上手にコミュニケーションをとり、協力する姿勢をもつことができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	自己紹介および乳児保育を学ぶにあたっての心構えについて理解する。		
第2回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	現代社会における子育て環境を考察し、その中でひとりひとりを大切にする乳児保育の重要性や役割への理解を深め、自分なりに考察できる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第1回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育の意義についてストーンクラフトを用いたイメージトレーニングを通して考え、理解する。		
第3回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	益々深刻化する虐待を保育士としてどのように向き合い対処していくべきかをグループワークを通して考え、自分の意見を言語化する。また乳児期と思春期との発達のつながりについて適切に理解することができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第2回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	思春期を見通した乳児期の保育(教科書第1章・第1節～第2節)について学ぶ。		
第4回 講義 形式	授業を通じての到達目標	改訂された保育所保育指針から読みとれる「乳児保育の役割と実践における大切な事項」について理解し、説明することができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第3回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育の現状、保育所保育指針と0、1、2歳児の保育内容及び乳児保育の歴史(教科書第1章・第3節～第6節)について紹介し学ぶ。		
第5回 講義 形式	授業を通じての到達目標	乳児にとって、愛されることは生きる事の最低条件といっても過言ではない。乳児を愛するとはどういうことなのか、どのような行為なのか、愛着の発達という視点から理解を深め、自分なりに考察することができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第4回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	愛されて育つということの意味(教科書第2章)から、愛されることの意味・泣くことの意味・ほほえみの意味(第1節～第2節)について学ぶ。		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 ”子どもを愛する”とは具体的にはどのような行為なのか？現場で役立つ様々な心理学や保育の理論を紹介し、実践できるだけ知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第5回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	愛されて育つということの意味(教科書第2章)から、大人は子どもをしつける(第3節)について学び理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第6回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第7回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月未満児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第8回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月から1才3か月未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第9回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月から1才3か月未満児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明することができる。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第10回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね1才3か月から2才未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第11回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね1才3か月から2才未満児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第12回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね2歳児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につけることができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第13回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね2歳児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 前期の授業のポイントを振り返り、自分自身は何が学べて、どのような保育を行える保育士を目指そうと考えているかを言語化することができる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・これまでの配布資料 全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。 ・前期試験に臨む適切な学習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	前期試験の説明及び前期授業の振り返り		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	乳児保育Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主1年	学期及び曜時限	後期 火曜4限	教室名	合同301教室
担 当 教 員	酒井 妙子	実務経験と その関連資格	社会福祉法人ミード保育園にて保育士として勤務した後、ベビーシッター会社のアドバイザー、手づくりほいく研究会の代表等を経て、育児セラピスト及びベビーマッサージインストラクター。		

《授業科目における学習内容》

乳児期の子どもの発達を理解し、育ちを支える保育が実際の現場でどのように展開されているのかを学ぶ。そして、演習を通じて、子ども達にとってより適切な保育とは何かについて自ら考え、同じ志を持つ仲間との意見交換やアクティビティの中で共に具体策を見出ししていく。さらにはそれが学生たちが保育士となった際の子どもの発達と関わる灯台となりえるような保育の心やまなざしにつながっていくような授業内容でありたい。

《成績評価の方法と基準》

定期試験(70%) 出席点(20%) 平常点(提出物、授業への参加態度や演習に取り組む姿勢など)(10%)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

- ・教科書:『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』
- ・参考図書:『保育所保育指針』、『命はどうして大切なのか(大野正人作 汐文社)』、『新・基本保育シリーズ⑩乳児保育Ⅰ・Ⅱ(中央法規)』、『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編、1歳児クラス編、2歳児クラス編(中央法規)』
- ・参考絵本:『命はどうしてたいせつなの(大野正人作・汐文社)』

《授業外における学習方法》

- ・授業終了時に、次回の授業内容についての予告をする。それについて関連する教科書の箇所や新聞・テレビなどの情報を入力し、ある程度の知識を持って授業に望むよう努める。
- ・授業内容をより具体的に理解し、実践に結びつけた知識となるためにも、実習をはじめ、現場体験を重ねるよう努める。
- ・授業における疑問点やさらに深く学びたいことは、自ら様々な文献を紐解き調べ学習するように心がける。

《履修に当たっての留意点》

乳児期は「ヒトが人間」となっていく一生の中で、もっとも大きな変化(発達)をなしとげる時期である。そして、「生きる為に生きる」エネルギーには目を見張るものがあるが、そのエネルギーと尊い生命を支えているのは子どもの隣に存在する大人(保育者)である。是非とも、学生の皆さんにはそのような存在になりえることに喜びをもって自覚して頂きたい。又、自覚してもらえれば授業を展開したいものである。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	前期で学んだ乳児期の重要性と、その発達課題を乗り越えていく上で大切な大人との関わり、それらにおける保育士の役割を正しく理解し、実践への意欲が育つことができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育の基本。前期の振り返りと共に、子どもと保育士との関係の重要性、個々の子どもに応じた援助や関わりについて、子どもの主体性の尊重と自己の育ち、体験と学びの芽生え等について再確認する。		
第2回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	0歳児の保育園での一日の生活の流れを把握し、乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何かを学び、大切にしたい視点について理解することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第1回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(0歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた生活の流れについて学ぶ。		
第3回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの保育環境は、人的環境と物的環境に分けられるが特に物的環境における室内環境と玩具について学び、乳児にとって心地良い室内環境や発達を促す玩具とはどのようなものかについて理解を深めることができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第2回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(0歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた保育環境について学ぶ。		
第4回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	改訂された保育所保育指針に基づく乳児保育における養護と遊びを支える教育的視点について学び、現場で必要な受容と応答的関わりについて考察することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第3回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 0歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(0歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた援助の実践について学ぶ。		
第5回 講義演習形式	授業を通じての到達目標	1歳児の保育所での一日の生活を把握すると共に、保育士の重要な役割である子どもの健康を保持するための視診や家庭との連携について理解することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第4回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決BOOK 1歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(1歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた生活の流れについて学ぶ。		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 1歳になった子ども達は、基本的な生活習慣について自分でやろうとする姿がみられるようになる。このような発達をふまえた適切な支援と保育環境について学び理解する。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第5回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 1歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(1歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた保育環境について学ぶ。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 自我の芽生えと共に自己主張が強くなる1歳児の発達を、心から喜び愛情をもって保育に当たることが出来るよう、1歳時の行動の裏にある発達の視点への理解を深めることができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第6回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 1歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(1歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた援助の実践について学ぶ。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 食事・排泄・衣服の着脱、清潔など毎日の生活リズムを安定させていくことと1人ひとりの子どもの欲求を十分満たしていく保育について学び理解することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第7回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 2歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(2歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた生活の流れについて学ぶ。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 運動能力も知的発達も進み、活動的になる2歳児に適した保育環境とはいかなるものか。発達をしっかりと理解した上で保育環境について理解し考察することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第8回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 2歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(2歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた保育環境について学ぶ。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 保育所保育指針に示されている「育みたい資質、能力」につながる2歳児の育ちについて理解し、3歳以降の保育の基盤となる保育と発達の援助について理解し考察することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第9回授業までの配布資料 ・『乳児保育の困りごと解決 BOOK 2歳児クラス編』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育(2歳児クラス)における子どもの発育・発達を踏まえた援助の実践について学ぶ。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 子どもの健康を維持し、安全を守っていくことは保育士に課せられた最大の役割であることを認識し、その上で様々な場面におけるリスクマネジメントについて、理解し考察することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第10回授業までの配布資料 ・足立区立園の保育の質が上がってきた理由(学研)参照	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図る為の配慮について学び、説明できる。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 乳児保育において子ども一人ひとりの欲求を満たし、興味や関心に即した対応は必要不可欠なものであるが、同時に集団での育ちの重要性も考慮する必要がある。このことへの理解を深め、その具体策について学ぶことができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第11回授業までの配布資料 ・足立区立園の保育の質が上がってきた理由(学研)参照	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における集団での生活における配慮について学び、説明できる。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 乳児から幼児への移行がスムーズに進むように、子どもの心の不安にしっかり寄り添い、その発達の特徴を正確に理解した対応が求められる。そのことを学び、具体策をしっかり吸収することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第12回授業までの配布資料 ・足立区立園の保育の質が上がってきた理由(学研)参照	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における環境の変化や移行に対する配慮について学び、説明できる。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 保育は集団で実施されるが、乳児にとって最も大切なのは個々の育ちである。ひとりひとりの育ちを保障する保育を目指すためにはどのような工夫がなされるべきなのか等について学び、子どもの発達に応じた適切な保育を実施する為に必要不可欠な指導計画の作成における留意点などを理解し考察することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第13回授業までの配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	乳児保育における計画の実践・長期的な指導計画と短期的な指導計画及び個別的な指導計画などについて学ぶ。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 後期の授業のポイントを振り返り、自分自身は何が学べて、どのような保育を行える保育士を目指そうと考えているかを言語化することができる。	・教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・第14回授業までの配布資料 ・『命はどうして大切な(汐文社)』	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。 ・後期試験に臨む適切な学習をしておくこと。
	各コマにおける授業予定	後期試験の説明及び後期授業の振り返り。 乳児保育授業の締めくくり。		

学 科	保健保育科		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	子どもの食と栄養		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年		学期及び曜時限	後期 火曜2限	教室名	合同302教室
担 当 教 員	西山 貴子	実務経験と その関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。			

《授業科目における学習内容》

- ①人の一生をライフステージに沿って、その時期の特徴と食生活との関わりについて学び、注意点・問題点を考察する。
- ②「乳幼児期」の発育の特徴と食との関連は、歯の萌出と咀嚼・間食の役割・偏食や問題行動など詳しく学ぶ。
- ③適切な発育ができる乳幼児の食内容と量について学び、3～4歳児に食べさせたい食事を計画し実習する。
- ④食物アレルギーや免疫力の低い乳幼児への衛生管理を学び、調理に活かす。

《成績評価の方法と基準》

試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「子どもの食と栄養」 中山書店

《授業外における学習方法》

- ①実習先で、食に関する児の様子と先輩保育士さん達の声かけ・指導のし方を学んでくる。例えば「偏食」にはどのように対応されていますか？
- ②食物アレルギー児が増えています。重症化しています。食物アレルギーについての基礎知識と対応を調べましょう。
- ③調理に関心を持ち、買い物に行って食材料の価格を調査、また調理が出来るよう練習しておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

人の一生に渡る健康は、連続性を持ってつながっています。出生時はもちろん、人の健康は妊婦の妊娠前～妊娠中の食生活と健康度が大きく左右します。高齢になってからの健康も、子どもの頃からの食生活が大きく影響します。中でも重要で取り返しのつかないのが成長期、特に乳幼児期です。保育士はその点を確認し、支援できる力を養いましょう。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	妊娠前・妊娠期の問題点・注意点について説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活① ・妊娠期と胎児期の栄養		
第2回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	授乳期の特徴と「母乳栄養」と「人工栄養」の利点や問題点などが説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・育児用ミルクの種類を調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活② ・乳児期(授乳期)の栄養;母乳栄養と人工栄養		
第3回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	離乳食作りの基本を理解し指導できるようになる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・離乳食について調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活③ ・乳児期(離乳期)の栄養;離乳の意義と食生活(アレルギーへの注意を含む)		
第4回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	販売されている離乳食の利点と問題点を知る。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・市販されている離乳食を調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活④ ・乳児期の栄養上の問題と健康への対応		
第5回 講義 演習形式	授業を通じての到達目標	幼児期の食機能を理解し、適切な硬さや偏食などの問題行動への適切なアドバイス・指導ができる。咀嚼の重要性を説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・実習先や周りの幼児の食事に関心を持ち、問題行動を調べる。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活⑤ ・幼児期の心身の発達と食生活 ・幼児期の成長・発達;食機能、幼児期の食行動		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	幼児期の食事量と内容が適切であるかどうかを判断し、アドバイス・指導ができることを目指す。調理実習計画の基本知識。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・幼児がどんな物を好んで食べているのか調査しておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活⑥ ・幼児期の栄養;心身の発達と食生活 ・食事摂取基準、1日の目安量、6つの基礎食品など			
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	幼児にとって「間食」は重要な意味を持ちます。それが不適切な間食にならないようアドバイス・指導ができる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・子どもの間食について、調べたり観察したりしておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活⑦ ・幼児期の栄養;心身の発達と食生活・間食(おやつ) ・間食の意義・考え方、適量、内容、好ましくない間食の背景			
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	5～7回の幼児期の授業内容をふまえ、調理実習計画を実習グループごとに立てる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ ★献立作成に必要な本など	調理実習計画の説明(レジュメ)の確認とこれまでの授業内容を復習しておく。調理実習グループでテーマや献立の方向性を決めておく。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活⑧ ・幼児期のまとめ ★3～5歳児の幼児期の食事を計画する 第5章;児童福祉施設における食事と栄養 ・保育所における栄養管理と献立作成			
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	学童期の問題は、乳幼児期の課題を引き継いでいることを認識する。調理実習計画を実習グループごとに仕上げる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ ★献立作成に必要な本など	・調理時間内に調理実習計画が仕上がるようにしておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;子どもの発育・発達と食生活⑨ ・学童期・思春期の栄養;心身の発達と食生活			
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	食の提供に関する安全性の知識を理解し、園での給食の安全性確保と家庭への指導ができるようになる。調理実習の安全性を確保できるように、献立の最終チェックを行う。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ ★計画中の献立表	・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・調理実習を安全に行うため行うことを調べておく。
	各コマにおける授業予定	第5章;児童福祉施設における食事と栄養 ・安全・安心な食事の確保;児童福祉施設で行われる調理の際の注意点(手洗い含む) ・食中毒を起こさないための三原則			
第11回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	遅刻しない、忘れ物しない、怪我しない(真剣に取り組む)グループ全員で協力して幼児の成長を応援できる食の計画を実現化する。	★グループごとの献立表 ★持ち物;(各自)エプロン、お米・食器布巾(分担)食材料、調味料など	・グループごとに献立の担当者・責任者を決め、衛生的で美味しく、栄養価に優れた食事が作れるよう研究し練習しておく。
	各コマにおける授業予定	調理実習(1);「3～5歳児に食べさせたい食事」 ・衛生面にも配慮して、グループごとに協力して作り上げる。			
第12回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	グループの計画が授業目的に合致していたか、幼児が食べる姿を思い浮かべながら考察する。確実に片づける。	★グループごとの献立表 ★持ち物;(各自)エプロン、お米・食器布巾(分担)食材料、調味料など	・日本型食生活の配膳方法を確認しておく。 ・食事マナーを調べておく
	各コマにおける授業予定	調理実習(2);配膳、試食、後片付け ・正しい・子どもが喜ぶ配膳の工夫、良い点・改善点を考察しながらマナーを守って試食、確実な後片付け			
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	食物アレルギーは増加・重症化しています。成長に不可欠な食べ物を危険な物としないよう正しい知識をつけ、保護者や主治医と協力体制がとれるようにする。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・食物アレルギーについて調べたり、情報収集しておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第6章;特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギーのある子どもへの対応			
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	疾病及び体調不良の子どもへに対して正しい知識をつけ、対応できるようにする。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・疾病及び体調不良について調べたり、情報収集しておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第6章;特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病及び体調不良の子どもへ対応			
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「子どもの食と栄養」のまとめとして、発達は高齢者まで生涯連続している。だからこそ子どもからの「食育」の重要性を認識し計画・実行できるようになる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・どのような「食育」が必要か考えておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
	各コマにおける授業予定	第3章;生涯発達と食生活 第4章;食育の基本と内容 ・保育所における食育の意義・目的と基本的考え方・食育計画を立てる、食を通じた保護者への支援			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子ども家庭福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年生		学期及び曜時限	前期 金曜日4限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	峪口 蔵人	実務経験とその関連資格	小規模保育園園長として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。			
《授業科目における学習内容》						
生活上困難を抱える方に対して関心をもち、理解しようとする姿勢を養う。そのうえで、社会福祉援助職たる保育士として他社に寄り添い、支援を行う方法について考察し、実践力を身に着けることを目的とする。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林、「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」 ミネルヴァ書房 参考図書 保育所保育指針 						
《授業外における学習方法》						
「子ども」に関するニュース、出来事などに関心をもち、読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
保育士として実務に直結しないように思えるが、保育士資格を定義しているのは本授業で扱う児童福祉法である。保育士の基盤となる授業内容であり積極的に参加されたい。試験・レポートの内容は授業中に話した内容をベースにします。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	自分について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	演習を通して「自己覚知」及び「子ども家庭福祉」について講義する			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもを取り巻く社会について理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	少子化や子どもを取り巻く社会の変遷、現状について講義する			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	演習を通して「幸福・幸せ」について見つめなおすとともに、子どもにとっての「幸福・幸せ」とは何か、子どもの権利を踏まえつつ考え、講義する。			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	海外の子ども家庭福祉の歴史について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	子どもの捉え方の変遷とともに海外における子ども家庭福祉の歴史について講義する			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	日本の子ども家庭福祉の歴史について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	日本における子ども家庭福祉の歴史及び戦前・戦後の社会福祉事業家の思いについて講義する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童福祉法について理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉法について講義する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育てに関連する法律を理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童虐待防止法など関連法について講義する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童福祉施設の種類と現状を理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉施設の種類と現状、今後の方向性について講義する		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭福祉を支える専門職について理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉施設の職員や資格、地域で支える人々など専門職について講義する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭に対するサービスについて理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育サービスやひとり親家庭等に対するサービスについて講義する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会的養護関連サービスについて理解する	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会的養護関連サービス及び今後の方向性について講義する。		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域の子育て支援サービスについて事例を用いながら検討することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例検討①		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	児童虐待の予防や対応について事例を用いて検討することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例検討②		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	障がいがある児童や家庭への支援について事例を用いて検討することができる	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例検討③		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭福祉において大切にしていることは何か、理解する。	・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	全15回の授業の振り返りを行うとともに、子ども家庭福祉において大切にしている価値について振り返る。		

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子どもの疾病と予防	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年	学期及び曜時限	後期 水曜2限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	立脇 一美	実務経験と その関連資格	総合病院に看護師として勤務(新生児室・小児看護) 重症心身障碍児施設に看護師として勤務(障害児・者看護)		

《授業科目における学習内容》

- ①子ども特有の疾患について、その病態生理や対応・予防方法について理解することができる。
- ②感染に対するメカニズムを理解し、学校感染症に対する具体的対応ができる。
- ③子どもの発達の評価を行い、障害児への個別的対応なども踏まえ、配慮の必要な子どもへの対応ができる。

《成績評価の方法と基準》

基準

子どもの疾患に関する医学的な事項を理解し、具体的に対応することができれば合格とする。

方法

出席評価点にて20%、平常評価点にて10%、定期試験の結果を70%として、総合的に評価を行う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキストは使用せず、プリントを配付する。

参考図書:「子どもの保健 I」 佐藤益子・中根淳子編 出版社:ななみ書房 ¥2,200(本体)

《授業外における学習方法》

事前にプリントを、熟読しておくこと(1時間程度)。

授業終了後、板書内容やプリントを中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。

《履修に当たっての留意点》

「自分ならどう考え、どうするのか」といった学問的視点を常に有し、授業に積極的に参加することを望みます。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	感染症の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(百日咳、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)	配付プリント	復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い感染症の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(百日咳、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)		
第2回	授業を通じての到達目標	発熱性疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(突発性発疹・扁桃腺炎・溶連菌感染症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い発熱性疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(突発性発疹・扁桃腺炎・溶連菌感染症)		
第3回	授業を通じての到達目標	夏風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い夏風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜)		
第4回	授業を通じての到達目標	冬風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(RSウイルス感染症、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い冬風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(RSウイルス感染症、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎)		
第5回	授業を通じての到達目標	皮膚疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解することができる。(脂漏性湿疹、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、伝染性軟属腫)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い子どもの皮膚疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(脂漏性湿疹、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、伝染性軟属腫)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(肥厚性幽門狭窄症、腸重積、周期性嘔吐症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(肥厚性幽門狭窄症、腸重積、周期性嘔吐症)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染性消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(ノロ及びロタウイルス感染症、病原性大腸菌感染症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い感染性消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、病原性大腸菌感染症)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(鉄欠乏性貧血、白血病、血管性紫斑病、血小板減少性紫斑病)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(鉄欠乏性貧血、白血病、血管性紫斑病、血小板減少性紫斑病)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、講義を行う。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について具体的に理解することができる。(成長痛、肘内障、先天性股関節脱臼)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(成長痛、肘内障、先天性股関節脱臼)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(突き指、骨折、脱臼、捻挫)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(突き指、骨折、脱臼、捻挫)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(髄膜炎、脳炎、髄液減少症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い脳疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(髄膜炎、脳炎、髄液減少症)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳鼻科疾患や眼科疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(急性中耳炎、細菌性結膜炎、流行性角結膜炎)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い耳鼻科疾患や眼科疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(急性中耳炎、細菌性結膜炎、流行性角結膜炎)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(心室中隔欠損、心房中隔欠損、心不全)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い心疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(心室中隔欠損、心房中隔欠損、心不全)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害を有する子どもの心理・障害特性・対応方法について、具体的に理解することができる。(主として発達障害や知的障害)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	障害を有する子どもの心理・障害特性・対応方法について、具体的に講義を行う。(主として発達障害や知的障害)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子ども家庭支援論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年生		学期及び曜時限	前期 水曜日4限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	峪口 蔵人	実務経験とその関連資格	小規模保育園園長として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。			
《授業科目における学習内容》						
子育て家庭の抱える多様なニーズに即した支援の方法について理解する。また、支援の際に保育士に求められる基本的態度についても理解し、実践できる力を養う						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『保育と子ども家庭支援論』株式会社みらい ・参考図書 保育所保育指針 						
《授業外における学習方法》						
「子ども」に関するニュース、出来事などに関心を持ち、読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
子どもには家庭がある。すなわち、保育士は家庭支援を必ず行っている。本授業においては、家庭を支援する基本的姿勢を養うことを目的とする。よって、積極的に授業へ参加する必要がある。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	支援を学ぶ意味を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	生活の中における支援について検討する			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭への支援について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	各年齢層の子どもを対象とした支援があることを演習形式で学習する。			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「援助する」ことについて説明できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	他者を支援する、援助するとはどういうことなのか、ともに考察する			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	子どもの権利条約や、子どもの権利についての歴史の変遷について講義する			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	日常の中における「子どもの権利」について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	家庭、保育所、社会的養護施設、地域社会における子どもの権利についてともに考察する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域における家庭支援の実践について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域社会における子育て支援や保育の状況を理解し、保育士の実践の活用する方法を検討する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域において民間と行政が連携した支援を理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域社会において行政とも連携した取り組みを学ぶことにより”協働”することについて検討する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭に対する社会資源を理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会資源について確認するとともに、子育て家庭に活用できる社会資源について講義する		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会資源を活用した子育て支援の展開について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会資源を活用しながら展開されている子育て支援の実態について講義する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多様な価値観について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	保護者や子どもの多様なニーズ、価値観について演習を通して理解する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭支援の対象と内容を理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	支援の対象となる方々の現状、支援の内容について講義する		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	保育所を利用する家庭支援について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域の子育て家庭への支援について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	特定妊婦、要支援児童、要保護児童への支援について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭支援の現状と課題、従事者の論理や姿勢について理解する	・教科書:『演習保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	本講義全体を振り返るとともに支援において必要とされる姿勢や倫理について講義する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	子どもの理解と援助		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年生		学期及び曜時限	前期 金曜日4限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	藤原範子	実務経験とその関連資格	保育士41年うち施設長21年。日本インリアル研究会会員。ちゃいんどネット大阪初任者研修講師。			
《授業科目における学習内容》						
「保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する」「子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する」「子どもを理解するための具体的な方法を理解する」「子どもの理解に基づく保育の援助や態度の基本について理解する」これらの目標に向けて、講義や演習等を通じて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学科修了試験:70パーセント 出席評価点:20パーセント 平常評価点:10パーセント						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新基本保育シリーズ10 「子どもの理解と援助」 監修;公益財団法人 児童育成協会 編集;清水益治 森俊之						
《授業外における学習方法》						
できるだけ授業で使用するプリントを事前に配布するので、授業までに読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
保育現場での実際の子どものかかわりをイメージし、これまでの実習など現場での学びを思い起こし学習できるよう心がける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育者として子どもを理解するという意味を知ることができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	現場での保育事例等を講義で聞く			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども理解から出発する保育について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	事例を読み解き、自分の意見をまとめ、他者と意見交換をする			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	場面による子ども理解の実践「環境の変化」について理解することができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	実際の場면을想定しかかわりを演習する			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもに対するかかわりと共感的理解について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	講義と演習			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	生活や遊びの中での子ども理解について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	講義と演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	人的環境としての保育者と子どもの発達について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども相互のかかわりと関係づくりについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	集団における経験と育ちについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達における葛藤やつまずきについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども理解のための保護者との情報共有について学ぶことができる①	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども理解のための保護者との情報共有について学ぶことができる②	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達の課題に応じた援助とかかわりについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	特別な配慮を要する子どもの理解と援助について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達の連続性と就学への支援について現状を知ることができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	14回の講義をまとめ「子どもの理解と援助について」学びを深めることができる。	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演 習
科 目 名	子どもの食と栄養		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年		学期及び曜時限	前期 火曜2限	教室名	合同302教室
担 当 教 員	西山 貴子	実務経験と その関連資格	介護老人保健施設・病院の管理栄養士として勤務。その後、各種専門学校(調理師・製菓衛生士、介護福祉士等)、栄養士・管理栄養士養成短大・大学等にて講師。その他、特定保健指導、クリニックの栄養指導なども経験。			

《授業科目における学習内容》

- ①食に意識を持つ(自分の食と健康の関わり、体型に対する意識と体格指数;BMI)
- ②「食生活指針」、食生活の変化と問題点(生活習慣病、朝食欠食、孤食と共食、こ食・豊かさ・便利さ等の注意点など)
- ③エネルギーと体重の関係、栄養素の種類と役割、水分の役割と脱水、食事の選び方・食べ方と健康への影響

《成績評価の方法と基準》

試験:70%、出席評価点:20%、平常点:10点

《使用教材(教科書)及び参考図書》

「子どもの食と栄養」 中山書店

《授業外における学習方法》

乳幼児や保護者を適切に導くには、保育者自身の正しい知識と実践が土台となります。「食と栄養」を学びながら、自分の食生活を見つめ考察して自分の身体を健康に修正しましょう。また、実習先では、給食や間食の内容・子どもたちの様子を観察し、どのような声掛けや指導が行われているか(食育)、子どもとその家族がどのような問題を抱えているのかなどを学びましょう。

《履修に当たっての留意点》

「食」は「健康の土台」であることは間違いありませんが、「楽しむこと」も重要です。現代の食は、簡単・便利・手軽で口に美味しく有難いですが、中身が見えなくなっています。だからこそ正しい知識を学ばないと、いつの間にか健康から遠ざかる危険性や子どもの成長が脅かされる危険性があります。食べることをもっと楽しんでください。

授業の方法	内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義 演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>食と身体の関係を理解する。自分の体型を正しく認識し、ダイエットに対する間違った考え方に気づき、食に関する意識を高めるきっかけにする。</p> <p>各コマにおける授業予定</p> <p>授業オリエンテーションと体格指数;BMI(自分のBMI・標準体重の算出と考察)</p>	<p>教科書「子どもの食と栄養」</p> <p>配布レジュメ</p>	<p>自分の食生活を意識してみること。</p> <p>授業終了時に示す課題を実施しておくこと。</p>
第2回 講義 演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>成長は継続しており、一生つながっている。時代環境の変化に伴う子どもの栄養・食生活の特徴と問題点を明確にし、栄養を学ぶ意識を理解する。</p> <p>各コマにおける授業予定</p> <p>第1章 保育における「子どもの健康と食生活」 「子どもの食と栄養」を学ぶ意義</p>	<p>教科書「子どもの食と栄養」</p> <p>配布レジュメ</p>	<p>授業内容の予習・復習を行うこと。</p> <p>授業終了時に示す課題を実施しておくこと。</p>
第3回 講義 演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>目指すべき食生活の方向性を定め、現代の子どもの食生活の現状(食生活内容の変化・欠食・こ食など)と課題を認識し、説明できる。</p> <p>各コマにおける授業予定</p> <p>第1章 保育における「子どもの健康と食生活」 ・子どもの食生活の現状と課題</p>	<p>教科書「子どもの食と栄養」</p> <p>配布レジュメ</p>	<p>現代の食生活の現状とその影響をより深く考察する。</p> <p>授業内容の予習・復習を行うこと。</p> <p>授業終了時に示す課題を実施しておくこと。</p>
第4回 講義 演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>食生活指針や乳幼児の栄養アセスメントについて説明できる。</p> <p>各コマにおける授業予定</p> <p>第1章 保育における「子どもの健康と食生活」 ・子どもの健全育成指針「食生活指針」 ・乳幼児の栄養アセスメント</p>	<p>教科書「子どもの食と栄養」</p> <p>配布レジュメ</p>	<p>授業内容の予習・復習を行うこと。</p> <p>授業終了時に示す課題を実施しておくこと。</p>
第5回 講義 演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>栄養・栄養素の概念を理解するとともに、食べ物をもつ3つの機能、栄養素の名前と栄養素の体内での役割、「エネルギー」について説明できる。</p> <p>各コマにおける授業予定</p> <p>第2章 栄養・食に関する基礎的知識① 2 栄養の基礎知識</p>	<p>教科書「子どもの食と栄養」</p> <p>配布レジュメ</p>	<p>自分の食生活を考察する。</p> <p>授業内容の予習・復習を行うこと。</p> <p>授業終了時に示す課題を実施しておくこと。</p>

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「炭水化物」、「糖質」と「食物繊維」について説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・自分の食生活を考察し、改善方法を考える。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識② 4 糖質、8 食物繊維		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「脂質」、「脂肪酸」、「コレステロール」について説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・自分の食生活を考察し、改善方法を考える。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識③ 5 脂質		
第8回	講義 形式	授業を通じての到達目標	「たんぱく質」の特徴と体内での役割が説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・自分の食生活を考察し、改善方法を考える。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識④ 3 たんぱく質		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「ビタミン」の働きや欠乏症や過剰症などを説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・自分の食生活を考察し、改善方法を考える。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑤ 6 ビタミン		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「ミネラル」の働きや過剰症や欠乏症などが説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・自分の食生活を考察し、改善方法を考える。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑥ 7 無機質(ミネラル)		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	体内での水分の役割、水分量と年齢による変化、年齢が小さいほど水分必要量が多いことや、脱水に対する注意点が説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・水分補給や脱水のニュースに関心を持っておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑦ 8 水分の役割と重要性		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「消化吸収」について説明できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ	・体内の働きについて興味を持っておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑧ 1 消化吸収の仕組み		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「加工食品の表示」や「6つの基礎食品」、「食中毒」について説明ができる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ ・加工食品の表示	・加工食品の食品表示について興味を持っておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑨ ・食品の分類・表示など ・献立と調理、食中毒(ノロウイルスなど)		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	「エネルギー代謝」や「日本人の食事摂取基準」の特徴、子どもに必要な量の基準を理解する。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ ・食事摂取基準	・食事摂取基準に関心を持っておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑩ 9～12 食事摂取基準		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	どんなものをどのくらい食べたら良いのかを「食事バランスガイド」を使って説明できる。また食生活に「バランスガイド」を活用できる。	・教科書「子どもの食と栄養」 ・配布レジュメ ・食事バランスガイド	・食事バランスガイドに関心を持っておく。 ・授業内容の予習・復習を行うこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	第2章 栄養・食に関する基礎的知識⑪ 食事バランスガイド 前期まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	幼児体育		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	体育室
担 当 教 員	可兒勇樹	実務経験と その関連資格	保育士として保育所に11年間勤務。			
《授業科目における学習内容》						
本講義では、幼児の運動遊びを解説し、自分自身で実際に体を動かしながら理解していく。また、運動指導の実践力を養うため。グループワークとして保育指導案の作成及びその指導案に沿った運動指導の発表を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
運動指導案作成20%,発表点30% 出席評価点20%,平常評価点30%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
特になし						
《授業外における学習方法》						
実習指導案の作成 実習指導案に沿った運動指導の事前学習						
《履修に当たっての留意点》						
運動指導を行うにあたって、子どもの安全に留意しながら指導案を作成することが望ましい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	幼児の運動の重要性について説明することができる	特になし		運動指導における子どもへの配慮を予習する
		各コマに おける 授業予定	幼児期の運動の重要性および安全配慮について			
第2回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	ボール遊びの注意点が説明できる	特になし		前回までの授業の復習 をしておく
		各コマに おける 授業予定	ボールを使った運動遊びを実際に行いながらその指導法について学ぶ			
第3回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	縄遊び・フラフープの注意点が説明できる	特になし		前回までの授業の復習 をしておく
		各コマに おける 授業予定	縄・フラフープを使った運動遊びを実際に行いながらその指導法について学ぶ			
第4回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	マット・平均台運動の指導法が説明できる	特になし		前回までの授業の復習 をしておく
		各コマに おける 授業予定	①マット・平均台を用いた運動指導を実際に行いながらその指導法について学ぶ ②グループワーク			
第5回	講義 演習形式	授業を 通じての 到達目標	跳び箱の運動指導法が説明できる	特になし		前回までの授業の復習 をしておく
		各コマに おける 授業予定	①跳び箱を用いた運動指導を実際に行いながらその指導法について学ぶ ②グループワーク			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	身近な生活用品を使った遊びの注意点が説明できる	特になし	前回までの授業の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	身近な生活用品を使った運動遊びを実際に行いながらその指導法について学ぶ		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動会の種目等の指導法が説明できる(1)	特になし	前回までの授業の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	①運動会で行える種目等を行いながらその指導法について学ぶ ②体操・お遊戯の指導法を学び立案する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	運動会の種目等の指導法が説明できる(2)	特になし	前回までの授業の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	①運動会で行える種目等を行いながらその指導法について学ぶ ②体操・お遊戯の指導法を学び発表する		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	集団での道具を使わない遊びの危険性やその対処法を説明できる	特になし	前回までの授業の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	道具を使わない集団遊びの実践とその指導法を学ぶ		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	年齢に合った運動あそびの指導案が作成できる	特になし	指導案を作成し、指導の準備を行う
		各コマにおける授業予定	年齢や遊びを立案し、指導案を作成する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	指導案をもとに幼児の運動指導ができる(1)	特になし	指導案を作成し、指導の準備を行う
		各コマにおける授業予定	作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	指導案をもとに幼児の運動指導ができる(2)	特になし	指導案を作成し、指導の準備を行う
		各コマにおける授業予定	作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	指導案をもとに幼児の運動指導ができる(3)	特になし	指導案を作成し、指導の準備を行う
		各コマにおける授業予定	作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	指導案をもとに幼児の運動指導ができる(4)	特になし	指導案を作成し、指導の準備を行う
		各コマにおける授業予定	作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	指導案をもとに幼児の運動指導ができる(5)	特になし	指導案を作成し、指導の準備を行う
		各コマにおける授業予定	作成した指導案をもとにグループで実際に運動遊びの指導を行う		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	社会福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時間	後期 水曜2限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	丸野 弘敦	実務経験と その関連資格	高齢者施設 相談員8年勤務 社会福祉士			
《授業科目における学習内容》						
虐待や貧困、家族介護などの諸問題に対して、保育者が知っておくべき事柄、法律や制度について理解を深め、社会福祉が、子どもから高齢者まで、すべての人の一生・生活に大きく関係していることを説明できるようになる。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『図解で学ぶ保育 社会福祉』萌文書林 ・参考図書:保育所保育指針、保育福祉指針など 						
《授業外における学習方法》						
<p>復習として、授業内で得た知識と普段の生活との関連性について考える。</p> <p>施設実習後は、授業で得た知識を実際に施設実習での体験を関連付けしておく。</p> <p>予習として、学科内で普段から使用している『朝日新聞時事ワークシート』を用いて、福祉領域の出来事について関心を強めておく。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
社会福祉は、子どもから高齢者まで、すべての人の一生・生活に大きく関係していることを理解し、少しでも社会福祉に関心・興味を持ち、保育者にとっても社会福祉は必要であることを理解し、受講してもらいたいです。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	保育者にとって、社会福祉の知識が重要であることについて、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『日本社会の現状(少子高齢化)』について理解する。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	妊娠・出産の制度や仕組みについて、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『妊娠にかかわる制度』について理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	戸籍制度や親権・容易国関する支援制度について、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第4回の授業開始時に3回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『出生に関する法律』について理解する。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの貧困とは何か、また児童家庭福祉にかかわる行政機関・施設・法律には何があるか、他者に簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『子どもの貧困』について理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利、社会福祉サービスの利用の仕組みについて、簡単な説明ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 	
		各コマにおける授業予定	『子どもの権利』について理解する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の必要性について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会保障について理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ICF・ノーマライゼーションについて、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	障害のとらえ方について理解する。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害児・者福祉の法律・制度について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第9回の授業開始時に4～8回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	障害児・者福祉の法律・制度について理解する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	『配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律』について理解する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	『地域福祉を支える機関や団体には、どのようなところがあるのか、また、どのような活動を行っているのか』、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域福祉についてについて理解する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	『保育者にとって、ソーシャルワークがなぜ必要か』、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第12回の授業開始時に9～11回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークについて理解する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	相談支援とは、どのようなことであるか、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	保育相談支援について理解する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	生活保護、低所得者福祉について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。
		各コマにおける授業予定	生活保護、低所得者福祉について理解する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護サービス・年金制度・死亡届について、簡単な説明ができる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・第15回の授業開始時に12～14回目までの小テストを実施するので、復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	高齢者福祉、介護保険制度について理解する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	誕生から死亡までに関連する法律・福祉制度について説明できる。	・教科書 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 ・配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	これまでの振り返り、まとめ		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	保育の心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 月曜日6限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	木下 亜子	実務経験とその関連資格	臨床心理士、公認心理師、保育士、教員専修免許。大阪府チーフスクールカウンセラー。いじめ問題対策連絡協議会委員。児童相談所や保健センターで発達相談やカウンセリング・各種心理検査を10年以上経験。延べ8,000件。			
《授業科目における学習内容》 乳幼児によくみられる言葉の問題、発達障害、情緒的なしんどさ、特性など、様々な問題について取り上げ、どのように対応していけば良いのかについて理解することができる。また、授業内での課題でもある自らの幼少期についてのエピソードを調べたり、自己分析をしたりすることで、自分自身を知ることができる。 後半では、様々な心身の問題や家庭環境・愛着について理解したうえで、カウンセリング技法を使ったやりとりについても学び、精神保健や心の問題について、授業の中で発展して個々が考えていくことができるようになる。						
《成績評価の方法と基準》 本試験、平常点(レポート提出、授業態度)、出席点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
《授業外における学習方法》 まとめプリントや宿題						
《履修に当たっての留意点》 レポート課題があります。授業の中で内容と提出期限をお知らせします。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	健診でどういうところに注目しているのかを説明できるようになる			宿題
		各コマにおける授業予定	一歳半健診の実際①			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	健診でどういうところに注目しているのかを説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	一歳半健診の実際②			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児から幼児前半のことばの問題について説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	ことばの問題			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	健診でどういうところに注目しているのかを説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	三歳児健診の実際			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児のことばの問題について説明できるようになる	まとめプリント		まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	ことばの問題 2			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童虐待について説明できるようになる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	児童虐待 事例検討		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童虐待について説明できるようになる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	児童虐待 事例検討		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	愛着について説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	愛着とは ①		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	愛着について説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	愛着とは ②		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉スペクトラムについて説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	自閉スペクトラム ①		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	自閉スペクトラムについて説明できるようになる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	自閉スペクトラム ②		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	気になる言動のある幼児について、視野を広げることができる	まとめプリント	まとめプリントの宿題
		各コマにおける授業予定	気になる幼児 ①		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	気になる言動のある幼児について、視野を広げることができる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	気になる幼児 ②		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	気になる言動のある幼児について、視野を広げることができる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	気になる幼児 ③		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期の授業のポイントを振り返り、言語化できる	まとめプリント	レポート課題
		各コマにおける授業予定	総復習		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専 門 分 野	授 業 の 方 法	演 習
科 目 名	環境		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	後期 土曜4・5限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	藤原範子					
実務経験と その関連資格	保育士41年うち施設長21年。日本インリアル研究会会員。NPO法人ちやいるどネット大阪理事(4年間)					
《授業科目における学習内容》 子どもが育つ過程で、モノ、自然、社会、等の「環境」はとても重要で大きな影響を与える。その環境の中に身を置き、様々な影響を受けるだけでなくその環境に主体的にかかわっていく中で生活し、遊びに取り込む中で成長していく。その中で保育する大人が果たす役割は大きいと考える。保育者がそれらの「環境」をどのようにとらえ、具体的に保育を実践していくのかを理解し学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》 学科修了試験:70パーセント 出席評価点:20パーセント 平常評価点:10パーセント						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 教科書:改定「環境構成の理論と実践」保育の専門性に基づいて 高嶋静子 著(郁洋舎) ・ 新しい保育講座⑨保育内容「環境」 久保健太・高嶋景子・宮里暁美 編著(ミネルバ書房) ・ 心を育てる保育環境 佐藤将之 著(小学館) ・ 保育所保育指針						
《授業外における学習方法》 配布プリントをよく読み理解する。理解できない箇所は質問をし理解を深める						
《履修に当たっての留意点》						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」について理解する		PC、プロジェクター、 プリント	保育所保育指針の中で「環境」に関する箇所を読んでイメージしておく	
	各コマにおける授業予定	子どもを取り巻く環境について知る。				
第2回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」について理解する		PC、プロジェクター、 プリント	事前配布のプリントを読んでおく	
	各コマにおける授業予定	身近な環境とのかかわりと感性の育ち				
第3回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」について理解する		PC、プロジェクター、 プリント	事前配布のプリントを読んでおく	
	各コマにおける授業予定	モノとのかかわりを通して生まれる育ち				
第4回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」について理解する		PC、プロジェクター、 プリント	事前配布のプリントを読んでおく	
	各コマにおける授業予定	生活と環境構成①(物的環境)				
第5回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」について理解する		PC、プロジェクター、 プリント	事前配布のプリントを読んでおく	
	各コマにおける授業予定	生活と環境構成②(人的環境)				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	乳児保育について他教科での学びを理解し事前の配布プリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	情緒の安定を促す環境構成①(物的環境)		
第7回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	乳児保育について他教科での学びを理解し事前の配布プリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	情緒の安定を促す環境構成②(人的環境)		
第8回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	発達と環境構成①		
第9回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	発達と環境構成②		
第10回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	発達と環境構成③		
第11回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	発達と環境構成④		
第12回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	具体的な保育内容と環境①		
第13回	授業を通じての到達目標	保育内容「環境」の実践について理解する	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んでおく
	各コマにおける授業予定	具体的な保育の内容と環境②		
第14回	授業を通じての到達目標	保育現場の実践を体験し理解を深める	PC、プロジェクター、プリント	事前配布のプリントを読んで保育現場についてイメージしておく
	各コマにおける授業予定	保育現場を見学し「環境」に焦点を当てて深く観察する		
第15回	授業を通じての到達目標	保育現場の実践を体験し理解を深める	PC、プロジェクター、プリント	見学に際しての自身の考えをまとめておく
	各コマにおける授業予定	保育現場で観察した内容について意見交換をし理解を深める		

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子どもの保健	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年	学期及び曜時限	前期 土曜4限	教室名	合同校舎301
担 当 教 員	立脇 一美	実務経験と その関連資格	総合病院にて看護師として勤務(新生児室・小児看護) 重症心身障害児施設に看護師として勤務(障害児・者看護)		

《授業科目における学習内容》

- ①子どもの身体的・精神的・社会的発育・発達について理解し、子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解することができる。
- ②子どもの疾病とその予防方法および適切な対応について理解し、実践することができる。
- ③小児保健統計を中心に現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について考え、配慮することができる。

《成績評価の方法と基準》

基準

子どもの疾患に関する医学的な事項を理解し、具体的に対応することができれば合格とする。

方法

出席評価点にて20%、平常評価点にて10%、定期試験の結果を70%として、総合的に評価を行う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキストは使用せず、毎回プリントを配付する。

参考図書:「図解 子どもの保健 I」 著者:大森正英/服部右子編 出版社:株式会社みらい ¥2,200(本体)

《授業外における学習方法》

予習:事前にプリントを、熟読しておくこと(1時間程度)。

復習:板書内容やプリントを中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。

《履修に当たっての留意点》

「自分ならどう考え、どうするのか」といった学問的視点を常に有し、授業に積極的に参加することを望みます。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの健康に関する基本的な考え方を習得し、それは個人因子と環境との整合性の中で成り立つことを理解することができる。	配付プリント	復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	WHOが提唱する健康の概念について、ヘルスプロモーションや各種保健統計を含め、講義を行う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもに関連する社会的問題について学び、自分なりの考えや見解を持つことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	現代社会における子どもの社会的問題(栄養や体力といった健康面・児童虐待・出生前診断なども含む)に着目し、その現状や課題について講義をする。		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標 児童虐待の現状を知り、その防止のためには、社会や地域ぐるみでの対応が必要であることを理解し、説明することができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	児童虐待の現状と、現在の虐待に関する行政的対応や地域的活動などについて講義を行う。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの身体的・精神的・社会的発育について、月齢や年齢に応じ、具体的に理解することができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもの身体的・精神的・社会的発育について、段階別に講義を行う。特に乳児の身体的発達については、詳細に説明を加える。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標 子どもの身体計測(身長・体重・胸囲・頭囲)を正確に行うことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもの発育および発達の把握と、身体計測の方法について説明を行う。		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの一般状態の観察のポイントを理解し、バイタルサインのチェックが正確にできるようになる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもの一般状態の観察のポイント、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態といったバイタルサインのチェックについて講義を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	麻疹・風疹・水痘といった学校感染症について理解し、集団感染も視野に入れ、早期発見や早期対応を行うことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	麻疹・風疹・水痘といった学校感染症の原因・潜伏期・感染期間・症状・対応方法について、具体的に講義を行う。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	流行性耳下腺炎・咽頭結膜熱といった学校感染症について理解し、集団感染も踏まえ、早期発見や早期対応を行うことができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	流行性耳下腺炎・咽頭結膜熱といった学校感染症の原因・潜伏期・感染期間・症状・対応方法について、具体的に講義を行う。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染を予防するための原則を理解し、予防接種の分類・時期・費用・副反応について理解することができる。	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	感染予防の三原則を理解し、予防接種の分類・時期・費用・副反応など取り扱い全般について、具体的に講義を行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	重要な予防接種の細かい留意事項が、理解できる。(四種混合・結核・MR・水痘・流行性耳下腺炎・日本脳炎・インフルエンザ)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	重要となる疾患別予防接種について、細かい留意事項の説明を行う。(四種混合・結核・MR・水痘・流行性耳下腺炎・日本脳炎・インフルエンザ)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	アレルギー疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(気管支喘息・アトピー性皮膚炎・花粉症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多いアレルギー疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(気管支喘息・アトピー性皮膚炎・花粉症)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器・循環器疾患の原因・症状・対応・予防方法について理解することができる。(ノロ及びロタウイルス感染症・腸重積・心不全・熱中症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い消化器疾患と循環器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(ノロウイルス感染症・ロタウイルス感染症・腸重積・心不全・熱中症)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもに多い血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(鉄欠乏性貧血・白血病・川崎病)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(鉄欠乏性貧血・白血病・川崎病)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器・内分泌疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(肺炎・SIDS・糖尿病・甲状腺疾患)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い呼吸器疾患と内分泌疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(肺炎・乳幼児突然死症候群・糖尿病・甲状腺疾患)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	腎・泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解し対応することができる。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い腎・泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に講義を行う。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	保育表現		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年生		学期及び曜時限	前期 月曜日7限	教室名	合同校舎301教室
担 当 教 員	大枝 美有紀	実務経験とその関連資格	京都市にて、児童発達支援施設、小規模保育園、企業主導型保育園にて保育士として勤務。担任、人材育成の業務を行う。大阪市子育て支援員研修(一時預かり事業の概要・保育内容)の講師を務める。保育士資格、幼稚園教諭2種免許			
《授業科目における学習内容》						
<p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育のねらい・内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得し、実習などの際にも、現場で活用できるようになる。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>部分設定保育発表:70% 出席評価点:20% 平常評価点10%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>新・保育と表現-理論と実践をつなぐために-、保育所保育指針、保育所保育指針解説書</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>授業内で手遊び、絵本の読み聞かせなどの保育技術の発表を行うため、復習や練習をしておくこと。 保育現場で行われている保育技術にはどのようなものがあるか調べ、自分自身でもやりたいと思うものを見つけておくこと。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>子どもたちの豊かな表現を育むためには、自分自身も表現することを楽しいと思えることが必要だと思います。多くの知識・技術を習得し、実習や現場に出た際にも自信をもって活用することができるように楽しみながら学んでいきましょう。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育内容「表現」の授業の進め方について理解する。領域「表現」のねらい・内容について理解し、説明できるようになる。	新・保育と表現 保育所保育指針	教科書の内容を全体的に事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 授業説明 保育内容領域「表現」			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の発達と表現の特徴を学び、説明できるようになる。	新・保育と表現	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	子どもの発達と保育内容「表現」			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	乳幼児の発達と表現の特徴を学び、保育の内容を考え実践することができるようになる。	新・保育と表現	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと	
		各コマにおける授業予定	乳幼児の遊びの計画、実践			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	手遊びの魅力や効果、使い方を学び、使うことができるようになる。	配布資料	授業内で学んだ手遊び以外のものも調べ、使えるように練習しておく。	
		各コマにおける授業予定	保育現場での身近な保育技術「手遊び」			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	絵本の読み聞かせの魅力や読み方を学び、実際に行うことができるようになる。	配布資料	自分の好きな絵本、読みたい絵本を探す。	
		各コマにおける授業予定	保育現場での身近な保育技術「絵本の読み聞かせ」			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	折り紙の魅力や子どもと折り紙を行う際の方法を学び、実践することができるようになる。	配布資料	折り紙を折り、自分でどのように進めるか行う。
		各コマにおける授業予定	保育現場での身近な保育技術「折り紙」		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	折り紙を使って季節の製作を仕上げることができる。	配布資料	自ら調べたものを作り上げることが出来るように練習する。
		各コマにおける授業予定	保育現場での身近な保育技術「折り紙」季節の折り紙 製作		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの造形表現を理解し、保育者がどのような環境を構成し、また、どのように関わっていくのかを学び、説明できるようになる。	新・保育と表現	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	造形表現		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもたちの造形表現の幅が広げられるような準備やかかわり方を学び、説明できるようになる。	新・保育と表現	教科書の指定ページを事前に読んでおくこと
		各コマにおける授業予定	造形表現		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	手遊び、絵本を使った部分保育の発表に向けて計画をできる。それぞれの保育技術を応用することができる。	なし	部分保育でどのような内容にしたいか考える。
		各コマにおける授業予定	手遊び、絵本、折り紙を使った部分保育の発表に向けて計画・練習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	手遊び、絵本、折り紙を使った部分保育の発表に向けて計画をできる。それぞれの保育技術を応用することができる。	なし	部分保育の発表に向けて、練習する。
		各コマにおける授業予定	手遊び、絵本、折り紙を使った部分保育の発表に向けて計画・練習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	手遊び、絵本、折り紙を使った部分保育の発表に向けて計画をできる。それぞれの保育技術を応用することができる。	なし	部分保育の発表に向けて、練習する。
		各コマにおける授業予定	手遊び、絵本、折り紙を使った部分保育の発表に向けて計画・練習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	人前で保育技術の発表を、自信をもって行うことができるようになる。	なし	部分保育の発表に向けて、練習する。
		各コマにおける授業予定	発表 振り返り		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	人前で保育技術の発表を、自信をもって行うことができるようになる。	なし	部分保育の発表に向けて、練習する。
		各コマにおける授業予定	発表 振り返り		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	人前で保育技術の発表を、自信をもって行うことができるようになる。	なし	部分保育の発表に向けて、練習する。
		各コマにおける授業予定	発表 振り返り		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	乳児保育 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主1年		学期及び曜時限	前期 火曜6限	教室名	合同301教室
担 当 教 員	酒井 妙子	実務経験と その関連資格	社会福祉法人ミード保育園にて保育士として勤務した後、ベビーシッター会社のアドバイザー、手づくりほいく研究会の代表等を経て、育児セラピスト及びベビーマッサージインストラクター。			
《授業科目における学習内容》						
命の大切さを学び、乳児の育ちを生活を正しく理解し、保育士としての望ましい関わりが学べる様な授業内容を展開する。 【乳児保育の基本・乳児保育の必要性と意義・0歳児～3歳未満児の発達と保育・子育て支援としての乳児保育(親とのつながり、つきあい方)】						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験(70%) 出席点(20%) 平常点(提出物、授業への参加態度など)(10%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 参考図書:『保育所保育指針』『子どもの育つみちすじ(服部祥子著 新潮文庫)』『愛するということ(エーリッヒ・フロム作 鈴木晶訳)』 参考絵本:『おへその穴(長谷川義史作 BL出版)』 						
《授業外における学習方法》						
<ul style="list-style-type: none"> 授業終了時に、次回の授業内容についての予告をする。それについて関連する教科書の箇所や新聞・テレビなどの情報を入手し、ある程度の知識を持って授業に望むよう努める。 授業内容をより具体的に理解し、実践に結びついた知識となるためにも、実習をはじめ、現場体験を重ねるよう努める。 授業における疑問点やさらに深く学びたいことは、自ら様々な文献を紐解き調べ学習するように心がける。 						
《履修に当たっての留意点》						
乳児期は「ヒトが人間」となっていく一生の中で、もっとも大きな変化(発達)をなしとげる時期である。そして、「生きる為に生きる」エネルギーには目を見張るものがあるが、そのエネルギーと尊い生命を支えているのは子どもの隣に存在する大人(保育者)である。是非とも、学生の皆さんにはそのような存在になりえることに喜びをもって自覚して頂きたい。又、自覚してもらえ様な授業を展開したいものである。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	乳児保育におけるスタッフ間の連携の重要性を理解し、様々な人と上手にコミュニケーションをとり、協力する姿勢をもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。 	
	各コマにおける授業予定	自己紹介および乳児保育を学ぶにあたっての心構えについて理解する。				
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	現代社会における子育て環境を考察し、その中でひとりひとりを大切にする乳児保育の重要性や役割への理解を深め、自分なりに考察できる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 配布資料 第1回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。 	
	各コマにおける授業予定	乳児保育の意義についてストーンクラフトを用いたイメージトレーニングを通して考え、理解する。				
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	益々深刻化する虐待を保育士としてどのように向き合い対処していくべきかをグループワークを通して考え、自分の意見を言語化する。また乳児期と思春期との発達のつながりについて適切に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 配布資料 第2回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。 	
	各コマにおける授業予定	思春期を見通した乳児期の保育(教科書第1章・第1節～第2節)について学ぶ。				
第4回	講義 形式	授業を通じての到達目標	改訂された保育所保育指針から読みとれる「乳児保育の役割と実践における大切な事項」について理解し、説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 配布資料 第3回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。 	
	各コマにおける授業予定	乳児保育の現状、保育所保育指針と0、1、2歳児の保育内容及び乳児保育の歴史(教科書第1章・第3節～第6節)について紹介し学ぶ。				
第5回	講義 形式	授業を通じての到達目標	乳児にとって、愛されることは生きるための最低条件といっても過言ではない。乳児を愛するとはどういうことなのか、どのような行為なのか、愛着の発達という視点から理解を深め、自分なりに考察できる。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 配布資料 第4回授業での配布資料 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。 	
	各コマにおける授業予定	愛されて育つということの意味(教科書第2章)から、愛されることの意味・泣くことの意味・ほほえみの意味(第1節～第2節)について学ぶ。				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 ”子どもを愛する”とは具体的にはどのような行為なのか？現場で役立つ様々な心理学や保育の理論を紹介し、実践できるだけの知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第5回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	愛されて育つということの意味(教科書第2章)から、大人は子どもをしつける(第3節)について学び理解する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第6回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第7回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月未満児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第8回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月から1才3か月未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第9回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね6か月から1才3か月未満児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第10回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね1才3か月から2才未満児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第11回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね1才3か月から2才未満児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第12回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね2歳児の発達について、エピソードを交えて紹介し、保育現場での保育士としての自分の働きをイメージする。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 発達における特徴を踏まえた適切な対応や保育について学び、実践に結びつけることのできる知識を身につける。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・第13回授業での配布資料	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・授業終了時に示す課題を実施しておくこと。 ・授業内容をより実践的かつ具体的に理解するため、できる限り時間を見つけて現場体験を重ね、自分自身を振り返っておくこと。
	各コマにおける授業予定	おおむね2歳児の保育における重要な発達の事柄を理解し、説明できる。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 前期の授業のポイントを振り返り、自分自身は何が学べて、どのような保育を行える保育士を目指そうと考えているかを言語化できる。	・教科書 『新時代の保育双書 乳児保育(株)みらい 大橋喜美子編』 ・配布資料 ・これまでの配布資料 全て	・教科書の指定部分を事前に読んでおくこと。 ・これまでの授業を振り返り、しっかりと復習しておくこと。 ・前期試験に臨む適切な学習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	前期試験の説明及び前期授業の振り返り		

学 科	保健保育科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子どもの疾病と予防	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主2年	学期及び曜時限	後期 火曜6限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	立脇 一美	実務経験と その関連資格	総合病院に看護師として勤務(新生児室・小児看護) 重症心身障碍児施設に看護師として勤務(障害児・者看護)		

《授業科目における学習内容》

- ①子ども特有の疾患について、その病態生理や対応・予防方法について理解することができる。
- ②感染に対するメカニズムを理解し、学校感染症に対する具体的対応ができる。
- ③子どもの発達の評価を行い、障害児への個別的対応なども踏まえ、配慮の必要な子どもへの対応ができる。

《成績評価の方法と基準》

基準

子どもの疾患に関する医学的な事項を理解し、具体的に対応することができれば合格とする。

方法

出席評価点にて20%、平常評価点にて10%、定期試験の結果を70%として、総合的に評価を行う。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

テキストは使用せず、プリントを配付する。

参考図書:「子どもの保健 I」 佐藤益子・中根淳子編 出版社:ななみ書房 ¥2,200(本体)

《授業外における学習方法》

事前にプリントを、熟読しておくこと(1時間程度)。

授業終了後、板書内容やプリントを中心にまとめ、次回の授業に臨むこと(1時間程度)。

《履修に当たっての留意点》

「自分ならどう考え、どうするのか」といった学問的視点を常に有し、授業に積極的に参加することを望みます。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	授業を通じての到達目標	感染症の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(百日咳、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)	配付プリント	復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い感染症の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(百日咳、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)		
第2回	授業を通じての到達目標	発熱性疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(突発性発疹・扁桃腺炎・溶連菌感染症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い発熱性疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(突発性発疹・扁桃腺炎・溶連菌感染症)		
第3回	授業を通じての到達目標	夏風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い夏風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜)		
第4回	授業を通じての到達目標	冬風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(RSウイルス感染症、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い冬風邪症候群の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(RSウイルス感染症、インフルエンザ、マイコプラズマ肺炎)		
第5回	授業を通じての到達目標	皮膚疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解することができる。(脂漏性湿疹、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、伝染性軟属腫)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
	各コマにおける授業予定	子どもに多い子どもの皮膚疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(脂漏性湿疹、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、伝染性軟属腫)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(肥厚性幽門狭窄症、腸重積、周期性嘔吐症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(肥厚性幽門狭窄症、腸重積、周期性嘔吐症)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	感染性消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(ノロ及びロタウイルス感染症、病原性大腸菌感染症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い感染性消化器疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、病原性大腸菌感染症)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(鉄欠乏性貧血、白血病、血管性紫斑病、血小板減少性紫斑病)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い血液疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(鉄欠乏性貧血、白血病、血管性紫斑病、血小板減少性紫斑病)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い泌尿器疾患の原因・症状・対応・予防方法について、講義を行う。(膀胱炎・腎盂腎炎・ネフローゼ症候群)		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について具体的に理解することができる。(成長痛、肘内障、先天性股関節脱臼)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(成長痛、肘内障、先天性股関節脱臼)		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(突き指、骨折、脱臼、捻挫)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い骨疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(突き指、骨折、脱臼、捻挫)		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(髄膜炎、脳炎、髄液減少症)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い脳疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(髄膜炎、脳炎、髄液減少症)		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	耳鼻科疾患や眼科疾患の原因・症状・対応・予防方法について、理解できる。(急性中耳炎、細菌性結膜炎、流行性角結膜炎)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い耳鼻科疾患や眼科疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(急性中耳炎、細菌性結膜炎、流行性角結膜炎)		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	心疾患の原因・症状・対応・予防方法について、具体的に理解することができる。(心室中隔欠損、心房中隔欠損、心不全)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	子どもに多い心疾患の原因・症状・対応・予防方法について講義を行う。(心室中隔欠損、心房中隔欠損、心不全)		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害を有する子どもの心理・障害特性・対応方法について、具体的に理解することができる。(主として発達障害や知的障害)	配付プリント	予習:プリントを読む(1時間程度) 復習:プリント、ノート整理(1時間程度)
		各コマにおける授業予定	障害を有する子どもの心理・障害特性・対応方法について、具体的に講義を行う。(主として発達障害や知的障害)		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子ども家庭福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主2年生		学期及び曜時限	前期 水曜日6限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	峪口 蔵人	実務経験とその関連資格	小規模保育園園長として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。			
《授業科目における学習内容》						
生活上困難を抱える方に対して関心をもち、理解しようとする姿勢を養う。そのうえで、社会福祉援助職たる保育士として他社に寄り添い、支援を行う方法について考察し、実践力を身に着けることを目的とする。						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林、「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」 ミネルヴァ書房 参考図書 保育所保育指針 						
《授業外における学習方法》						
「子ども」に関するニュース、出来事などに関心をもち、読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
保育士として実務に直結しないように思えるが、保育士資格を定義しているのは本授業で扱う児童福祉法である。保育士の基盤となる授業内容であり積極的に参加されたい。試験・レポートの内容は授業中に話した内容をベースにします。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	自分について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	演習を通して「自己覚知」及び「子ども家庭福祉」について講義する			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもを取り巻く社会について理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	少子化や子どもを取り巻く社会の変遷、現状について講義する			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの権利について考えることができる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	演習を通して「幸福・幸せ」について見つめなおすとともに、子どもにとっての「幸福・幸せ」とは何か、子どもの権利を踏まえつつ考え、講義する。			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	海外の子ども家庭福祉の歴史について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	子どもの捉え方の変遷とともに海外における子ども家庭福祉の歴史について講義する			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	日本の子ども家庭福祉の歴史について説明できる	<ul style="list-style-type: none"> 教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける授業予定	日本における子ども家庭福祉の歴史及び戦前・戦後の社会福祉事業家の思いについて講義する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	児童福祉法について理解する		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	児童福祉法について講義する			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子育てに関連する法律を理解する		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	児童虐待防止法など関連法について講義する			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	児童福祉施設の種類と現状を理解する		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	児童福祉施設の種類と現状、今後の方向性について講義する			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子ども家庭福祉を支える専門職について理解する		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	児童福祉施設の職員や資格、地域で支える人々など専門職について講義する			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子育て家庭に対するサービスについて理解する		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	保育サービスやひとり親家庭等に対するサービスについて講義する			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	社会的養護関連サービスについて理解する		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	社会的養護関連サービス及び今後の方向性について講義する。			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	地域の子育て支援サービスについて事例を用いながら検討することができる		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討①			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	児童虐待の予防や対応について事例を用いて検討することができる		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討②			
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	障がいがある児童や家庭への支援について事例を用いて検討することができる		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討③			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子ども家庭福祉において大切にしていることは何か、理解する。		・教科書:『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』 萌文書林 ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	全15回の授業の振り返りを行うとともに、子ども家庭福祉において大切にしている価値について振り返る。			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	子ども家庭支援論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼主2年生		学期及び曜時限	前期 木曜日7限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	峪口 蔵人	実務経験と その関連資格	小規模保育園園長として勤務。社会福祉士、精神保健福祉士、保育士。			
《授業科目における学習内容》						
子育て家庭の抱える多様なニーズに即した支援の方法について理解する。また、支援の際に保育士に求められる基本的態度についても理解し、実践できる力を養う						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『保育と子ども家庭支援論』株式会社みらい ・参考図書 保育所保育指針 						
《授業外における学習方法》						
「子ども」に関するニュース、出来事などに関心を持ち、読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
子どもには家庭がある。すなわち、保育士は家庭支援を必ず行っている。本授業においては、家庭を支援する基本的姿勢を養うことを目的とする。よって、積極的に授業へ参加する必要がある。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	支援を学ぶ意味を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支 援』株式会社み らい ・配布資料 	時事問題について関心 を寄せておくこと。	
		各コマに おける 授業予定	生活の中における支援について検討する			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	子育て家庭への支援について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支 援』株式会社み らい ・配布資料 	時事問題について関心 を寄せておくこと。	
		各コマに おける 授業予定	各年齢層の子どもを対象とした支援があることを演習形式で学習する。			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	「援助する」ことについて説明できる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支 援』株式会社み らい ・配布資料 	時事問題について関心 を寄せておくこと。	
		各コマに おける 授業予定	他者を支援する、援助するとはどういうことなのか、ともに考察する			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	子どもの権利を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支 援』株式会社み らい ・配布資料 	時事問題について関心 を寄せておくこと。	
		各コマに おける 授業予定	子どもの権利条約や、子どもの権利についての歴史の変遷について講義する			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	日常の中における「子どもの権利」について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支 援』株式会社み らい ・配布資料 	時事問題について関心 を寄せておくこと。	
		各コマに おける 授業予定	家庭、保育所、社会的養護施設、地域社会における子どもの権利についてともに考察する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域における家庭支援の実践について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域社会における子育て支援や保育の状況を理解し、保育士の実践の活用する方法を検討する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域において民間と行政が連携した支援を理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	地域社会において行政とも連携した取り組みを学ぶことにより”協働”することについて検討する		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子育て家庭に対する社会資源を理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会資源について確認するとともに、子育て家庭に活用できる社会資源について講義する		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会資源を活用した子育て支援の展開について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	社会資源を活用しながら展開されている子育て支援の実態について講義する		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	多様な価値観について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	保護者や子どもの多様なニーズ、価値観について演習を通して理解する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭支援の対象と内容を理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	支援の対象となる方々の現状、支援の内容について講義する		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	保育所を利用する家庭支援について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	地域の子育て家庭への支援について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	特定妊婦、要支援児童、要保護児童への支援について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	事例を用いながら、現状、支援の方法、倫理について演習を行う		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子ども家庭支援の現状と課題、従事者の論理や姿勢について理解する	・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
		各コマにおける授業予定	本講義全体を振り返るとともに支援において必要とされる姿勢や倫理について講義する		

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	演習
科 目 名	子育て支援		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主2年生		学期及び曜時限	後期 水曜6限	教室名	合同302教室
担 当 教 員	峪口 蔵人	実務経験と その関連資格	社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、小規模保育園園長等			
《授業科目における学習内容》						
保育士が実践する子育て支援について、様々な対象者、場の理解とともに内容や、方法、技術を具体的に学ぶ。そして、保育士が支援する際の基本原則や姿勢を身に着けることをも目標とする						
《成績評価の方法と基準》						
科目修了試験 70% 出席評価点 20% 平常評価点 10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・参考図書 保育所保育指針 						
《授業外における学習方法》						
「子ども」に関するニュース、出来事などに関心をもち、読むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
「子育て支援」の主役は「子育て家庭」である。保育士は支える存在である。基本的な姿勢や倫理について学ばれたい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	保育士が子育て支援を行う意味について検討する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける 授業予定	保育士と子育て支援			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	信頼関係の形成方法について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける 授業予定	演習を通して、他者と信頼関係を構築する方法を検討する。			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	自己覚知について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける 授業予定	援助するには、「自己覚知」が必要であることを演習を通して検討する			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	ニーズの多様性について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける 授業予定	さまざまなニーズが存在することを演習を通して理解する			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての 到達目標	子どもや保護者が他者と関わる場について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料 	時事問題について関心を寄せておくこと。	
		各コマにおける 授業予定	実際の子育て支援の取り組みなどを例にその意義や役割、内容について検討する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	インテーク、アセスメントについて理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	実際にプログラムを立てながら、インテークやアセスメントの重要性を理解する			
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	プランニング、モニタリングについて理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	実際にプログラムを立てながら、プランニング、モニタリングの重要性を理解する			
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	エヴァリュエーション、ターミネーションや「援助契約」について理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	実際にプログラムを立てながら、エヴァリュエーション、ターミネーションや「援助契約」の重要性を理解する			
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	本人主体、自己決定の意味と意義を理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	演習を通して、本人主体、自己決定など本質的な原則について理解する			
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	保育所における子育て支援の内容や方法、技術を理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	演習を通してながら、保育所における子育て支援の内容や方法、技術について講義する。			
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	地域の子育て家庭に対する子育て支援の内容や方法、技術を理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	演習を通してながら、地域の子育て家庭に対する子育て支援の内容や方法、技術について講義する。			
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	障がいのある児童やその家庭に対する子育て支援の内容や方法、技術を理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	演習を通してながら、障がいのある児童やその家庭に対する子育て支援の内容や方法、技術について講義する。			
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	特別な配慮を要する児童やその家庭に対する子育て支援の内容や方法、技術を理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	演習を通してながら、特別な配慮を要する児童やその家庭に対する子育て支援の内容や方法、技術について講義する。			
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	特定妊婦、要支援児童、要保護児童、児童虐待に対する子育て支援の内容や方法、技術を理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	演習を通してながら、特定妊婦、要支援児童、要保護児童、児童虐待に対する子育て支援の内容や方法、技術について講義する。			
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	子育て支援における倫理について理解する		・教科書:『演習 保育と子育て支援』株式会社みらい ・配布資料	時事問題について関心を寄せておくこと。
	各コマにおける授業予定	子育て家庭のニーズの多様性、価値観の多様性を踏まえながら、保育士として展開する子育て支援の方法を検討する。			

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	保健保育科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	演習
科 目 名	子どもの理解と援助		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜主2年生		学期及び曜時限	前期 土曜日2限	教室名	合同校舎302教室
担 当 教 員	藤原範子	実務経験とその関連資格	保育士41年うち施設長21年。日本インリアル研究会会員。ちゃいんどネット大阪初任者研修講師。			
《授業科目における学習内容》						
「保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する」「子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する」「子どもを理解するための具体的な方法を理解する」「子どもの理解に基づく保育の援助や態度の基本について理解する」これらの目標に向けて、講義や演習等を通じて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
学科修了試験:70パーセント 出席評価点:20パーセント 平常評価点:10パーセント						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
新基本保育シリーズ10「子どもの理解と援助」 監修;公益財団法人 児童育成協会 編集;清水益治 森俊之						
《授業外における学習方法》						
できるだけ授業で使用するプリントを事前に配布するので、授業までに読んでおく。						
《履修に当たっての留意点》						
保育現場での実際の子どものかかわりをイメージし、これまでの実習など現場での学びを思い起こし学習できるよう心がける。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	保育者として子どもを理解するという意味を知ることができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	現場での保育事例等を講義で聞く			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども理解から出発する保育について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	事例を読み解き、自分の意見をまとめ、他者と意見交換をする			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	場面による子ども理解の実践「環境の変化」について理解することができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	実際の場면을想定しかかわりを演習する			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	子どもに対するかかわりと共感的理解について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	講義と演習			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	生活や遊びの中での子ども理解について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく	
		各コマにおける授業予定	講義と演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	人的環境としての保育者と子どもの発達について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども相互のかかわりと関係づくりについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	集団における経験と育ちについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達における葛藤やつまずきについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども理解のための保護者との情報共有について学ぶことができる①	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	子ども理解のための保護者との情報共有について学ぶことができる②	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達の課題に応じた援助とかかわりについて学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	特別な配慮を要する子どもの理解と援助について学ぶことができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達の連続性と就学への支援について現状を知ることができる	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	14回の講義をまとめ「子どもの理解と援助について」学びを深めることができる。	PC、プロジェクター、プリント	事前に配布したプリントを読み、自身の思いをイメージしておく
		各コマにおける授業予定	講義と演習		